

日本医学教育学会 広報・情報基盤委員会

委員長: 椎橋実智男(埼玉医科大学 IR センター)

副委員長: 浅田 義和(自治医科大学医学部医学教育センター)

委員: 臼井いづみ(千葉大学医学部附属病院総合医療教育研修センター)

近藤 猛(名古屋大学医学部附属病院総合診療科)

菅沼 太陽(東京大学医学系研究科医学教育国際研究センター)

杉本なおみ(慶應義塾大学看護医療学部)

瀬尾 宏美(高知大学医学教育創造センター)

田中 淳一(東北大学大学院医学系研究科医学教育推進センター)

鶴田 潤(東京科学大学ヘルスケア教育機構)

村岡 千種(藤田医科大学保健衛生学部リハビリテーション学科)

守屋 利佳(北里大学医学部医学教育研究部門)

## 巻 頭 言

椎橋 実智男

日本医学教育学会

広報・情報基盤委員会 委員長

医学教育白書は、1972年に学会誌である「医学教育」の特集「日本医学教育の現況」としてまとめられたことに端を発します。1978年版からは「医学教育」の別冊となり、過去4年間の医学教育に関わる情報を対象として、日本医学教育学会の編集で4年ごとに発刊されるようになりました。2014年版では、社会のデジタル化を反映し、それまで本書の資料として巻末に掲載されていた情報を学会ホームページに移すという方針となり、広報・情報基盤委員会(当時は広報・情報基盤開発委員会)が編集を担当することになりました。また、これを機に本書は「医学教育」の別冊ではなく、ISBNをもつ独立した書籍となりました。今回の「医学教育白書2026年版」は2023年～2026年を対象としており、通算では13冊目となります。

第1部は「現状と振り返り」として、本学会理事長による医学教育の課題と展望に始まり、入学者選抜、卒前教育、卒後臨床研修から生涯学習、さらに、医学教育研究や医学教育専門家制度、医学教育の質保証、医学教育行政など様々な角度から記載されています。

第2部は「医学教育実践のGood Practice」として、2022年に登場し急速に進歩するAIの教育利用、診療参加型臨床実習の実質化に不可欠なWorkplace-based Assessment、医学教育分野別評価でも重要な行動科学、統合型教育、教育プログラム評価などについて、4年間で特に注目されたテーマについて記載されています。

第3部は「医療系専門職教育」として、医学・医療に関わる多くの職種(国家試験が行われている)の教育について、他職種の読者にもわかりやすいように、職種の定義、教育制度、教育内容と到達目標、現状の課題、今後の展望、というフォーマットで記載されています。

第4部と第5部は、4年間の日本医学教育学会の活動の記録です。第4部は「日本医学教育学会の活動」として各委員会の活動報告、第5部は「日本医学教育学会大会」として大会長・実行委員長による学術大会の記録と振り返りが記載されています。

本書が、本学会の会員、医学教育の関係者、医学教育に関心を持つ方々に対して系統的な情報を提供し、わが国の医学・医療者教育の一層の充実と発展に資することを願っています。